

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月28日現在

機関番号：54502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370721

研究課題名(和文) 英語多読が読み・語彙・情意の諸側面に及ぼす影響はどのように関係しているか？

研究課題名(英文) Assessing the influence of extensive reading in English on learners' reading, vocabulary knowledge, and attitude toward English and English learning

研究代表者

今村 一博 (IMAMURA, Kazuhiro)

神戸市立工業高等専門学校・その他部局等・教授

研究者番号：70632826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：初級英語学習者を対象とした課外での英語多読が、読み・語彙・情意の諸側面に早い段階でどのような影響を及ぼすか、多面的に縦断的研究を行った。その結果早い時期から、情意面では英語及び英語学習に対する肯定的な態度・動機づけが高まる、日本語に訳さないで英文のまま理解しようとするストラテジーが多用されるようになる、読みの速さ、語彙認識の速さが向上するが、読みの正確さは影響が表れにくい、視線解析の調査から、英文を読む際の停留回数が減少するという読みの質的变化が生じることがわかった。多読の好ましい影響として早い時期から何が表れやすく、何が表れにくいかを考慮して、多読を指導計画に組み込むことが望ましい。

研究成果の概要(英文)：This study examined how extensive reading for beginner-level English learners affects their reading, vocabulary knowledge, and attitude toward English and English learning at an early stage. Results revealed that: 1) it improved their attitude and motivation toward English and English learning; 2) it increased the usage of strategies to read English without translating English to Japanese; 3) it increased their reading speed and word recognition but not their reading comprehension; and 4) it caused a qualitative change in decreasing the number of fixations while reading English. It is necessary to consider what favorable influences extensive reading tends to have and not have on learners at an early stage, subsequently incorporating extensive reading into teaching plans effectively.

研究分野：英語教育

キーワード：多読 読みの速さ 読みの正確さ 語彙認識の速さ 読解ストラテジー 視線解析 態度・動機づけ

1. 研究開始当初の背景

国内の諸学校での英語指導において、英語の読む量を重視した指導は依然として十分に行われているとは言えない状況が続いている(今村, 2011)。指導者が多読用図書を整備・管理を困難と思うだけでなく、長期間に亘って学習者に多読指導を行うことが困難と考えるケース、限られた授業の時間に多読を取り入れることは難しいと考えるケース等があるかもしれない。

国内の英語多読に関する実証的研究も増えているが、その影響を知識・運用力、情意面等広く多面的に調査した実証的研究はあまり無い。多読が学習者に対して、早い段階でどのような影響を与えるか、また影響の表れやすい技能・知識と、表れにくい技能・知識があるのかといった研究も十分に行われてきていない。多読の多岐にわたる好ましい影響が数多く報告されているが、その研究の調査対象者の習熟度、多読期間、読書量は様々である。

また英語指導者は特に中学や高校では、指導対象である学習者の英語習熟度が低いと認識している場合、多読指導を行わない傾向がある(今村, 2015)。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究では多くの指導者が負担を感じにくいと思われる方法及び期間で多読指導を行い、同じ初級英語学習者を対象にして多様な観点から調査を実施し、多読指導を行っていない指導者には多読導入に際して、既に多読指導を行っている指導者には明示的指導や意図的学習とのバランスなど指導計画やカリキュラムを考える上で参考となる知見を得ることを目的とすることにした。

また多読によって影響の表れやすい技能・知識と、表れにくい技能・知識を特定することができ、多読が学習者へ及ぼす影響のメカニズムを検討するのに貢献する証左が得られ

れば、それについても検討したいと考えた。

3. 研究の方法

3.1 参加者

初級英語学習者(多くがTOEIC300点~480点程度)である高専2年生83名(16~17歳)を参加者として、41名を多読を行う多読群(処遇群)、42名を多読を行わない対照群とした。

3.2 多読の方法

英語の授業中に次のように説明して、多くの学校で比較的实施しやすいと考えられる半年間に満たない約5か月間の課外での英語多読を実施した。「課外に図書館で易しい単語で書かれた、自分が好きな英語の本を選んで借りる、課外で自分のペースで読み進める、読後に指定の記録用紙に読書記録をつける、定期的に授業で記録用紙を提出する。」

多読期間の前後に以下のテスト及び質問紙による調査を行った。

3.3 テストによる調査

3.3.1 リーディング

リーディングの速さ

リーディングの速さ(WPM: Words per Minute)を測定するという時間的プレッシャーを与える中で、やや易しい英文テキストを読んだ後、多肢選択式の内容把握問題に解答する調査を行った。

リーディングの正確さ(内容把握の正確さ)

十分な読む時間を与えて時間的プレッシャーがない中で、やや難しい英文テキストを読んだ後、多肢選択式の内容把握問題に解答する調査を行った。

リーディング中の視線解析(眼球運動)及び面接

視線計測装置(ナック社製)を利用して呈示された英語の文章を、参加者が読んで多肢選択式の内容把握問題に解答している間の視線

を記録し、付属の視線解析ソフトを利用して、視線の軌跡、停留回数、1回あたりの平均停留時間を分析した。(調査直後に、参加者に面接しながら口頭で自分の課題に取り組んでいた状況等について質問する時間を設定した。)

3.3.2 語彙

語彙の広さ

頻度順位2,400番目までの名詞、形容詞、動詞から無作為抽出した単語に対する日本語訳を多肢選択肢から選択する形式で出題した。

語彙認識の速さ

呈示用ソフトを利用して、モニター上に語長・音節数・品詞・頻度等を統制した実在語と、Balota et al. (2007)から語長を統制して無作為抽出した非実在語をランダムに呈示して、参加者が実在語か非実在語かをできるだけ速く判断して指定のキーを押す語彙性判断課題を課した。

3.3.3 リスニング

リスニングの正確さ(内容把握の正確さ)

多読によるリスニングに対する効果も報告されているので、短い英語の会話及び文章を聴いた後、多肢選択式の内容把握問題に答えるリスニング問題を課した。

3.4 質問紙調査(マークカード式、リカルトスケール6件法)

リーディング・ストラテジー

今村(2007)で使用した、リーディング・ストラテジーに関して自身がどの程度使用しているのか認識を問う19問の質問項目から構成される質問紙調査を行った。

英語及び英語学習に対する態度・動機

今村(2007)で使用した、54問の質問項目から構成される質問紙調査を行った。

4. 研究成果

約5か月間の多読期間の間に、多読群は平均22,329語、最大83,100語、最少13,000語読んだ。

統計処理をした結果、統計的有意差が表れ

た多読の影響は以下の通りであった。

リーディングの速さ、語彙認識の速さは有意に向上したが、リーディングをしている時の内容把握の正確さ、語彙の広さ、リスニングでの内容把握の正確さは有意に向上しなかった。

視線解析の調査から、英語の文章を読んでいる際の1回あたりの視線の停留時間に関して、有意な影響は見られなかったが、停留回数は有意に減少し、読みの質的变化があった。

質問紙調査の結果、リーディング・ストラテジーに関しては、「英文を読んでいる時に日本語に訳さず英語のまま理解するストラテジー」をより多く使用していた。情意面では英語及び英語学習に対する肯定的な態度・動機づけが高まり、不安が弱まって自信を持つようになっていた。

多読に関する多くの実証的研究では様々な影響が報告されているが、初級学習者を対象とした約5か月間という比較的短い期間の多読を実施した本研究の結果を整理すると、a)多読は多面的に好ましい影響を及ぼすが、影響が早い時期に表れるものと、表れないものがある。

b)多読が早い時期に及ぼす影響は、読みの速さ、語彙認識の速さのように、順序として正確さよりも速さに関するものが多い。

c)多読によって、流暢な読みの必要条件で、読みの下位処理である語彙認識が速くなる、視線の停留回数が減る、日本語に訳さないで英語のまま理解する、読みが速くなる等の影響があり、結果として英語を読むことに対してだけでなく、広く英語及び英語学習に対して肯定的な態度・動機づけが高まるという相互に関連している多様な好ましい影響が見られた。

d)国内外の多読研究で報告されている、多読による、語彙の広さ、リーディング及びリスニングの内容把握の正確さの向上、本研究では見られなかった面でのリーディング・スト

ラテジー及び情意への好ましい影響は、より長期間にわたるもっと多くの読書量が必要と考えられる。しかしながら、本研究の参加者よりも初級と見られる習熟度の英語学習者を対象とした Fujita & Noro(2009)では、数千語の読書量で、リーディングの速さだけでなく、内容把握の正確さも向上し、情意面でも好ましい影響があったことが報告されている。初級の習熟度の学習者の方が短期間の少ない読書量で多面的な好ましい影響が表れやすい可能性があるが、検証が必要である。

教育的示唆としては、

イ) 先述の通り、英語指導者は指導対象である学習者の英語習熟度が低いと認識している場合、多読指導を行わない傾向がある(今村, 2015)が、初級英語学習者を対象とした本研究において多様な好ましい多読の影響が見られた。また課外での多読で、多読期間が約 5 か月という短い期間に平均 22,000 語余り読む程度で好ましい影響が表れた。よって特に初級英語学習者を対象に指導したり、カリキュラムを検討したりする際にはまずは授業にも負担を与えない、半年未満の課外での多読指導を行うことから始めることが有効だと考えられる。

ロ) 課外での多読の短期間における期待される好ましい影響は、語彙認識が速くなる、視線の停留回数が減る、日本語に訳さないで英語のまま理解する、読みが速くなる等、「速さ」、つまり英語を読む「流暢性」に関するものが多いので、授業内ではリーディングの正確さ等の「正確さ」に関する内容を中心に行うとよいと考えられる。また語彙に関しては、短期間の多読では語彙の広さの向上は期待できないので、明示的指導及び意図的学習で語彙の広さを向上させることが必要と考えられる。

ハ) 初級学習者ならば多読の影響によって、リーディングの速さが短期間に向上するこ

とが期待されるので、多読期間前と期間後にリーディングの速さを測定することにより、学習者自身が可視化された効果を認識することによって、学習者の動機づけをさらに強化することができると考えられる。

ニ) 多読期間の早い段階で、英語を読むことに対してだけでなく、広く英語及び英語学習に対して肯定的な態度・動機づけが高まるといった情意面への好ましい影響が見られるので、英語や英語学習に対して苦手意識や好ましくない態度・動機づけを持っている学習者に対しても、多読は有効な指導と考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計6件)

今村一博 (2016). 「英語多読の影響 リーディング中の眼球運動による調査」第 38 回全国高等専門学校英語教育学会研究大会(東京:オリンピック記念青少年総合センター)

今村一博 (2016). 「英語多読が情意、読解ストラテジーに及ぼす早い段階での影響」第 42 回全国英語教育学会埼玉研究大会(埼玉:獨協大学)

今村一博 (2016). 「英語多読の早い時期における影響」第 46 回中部地区英語教育学会三重大会(三重:鈴鹿医療科学大学)

今村一博 (2015). 「自由記述式回答用紙を用いた英語多読の研究」第 41 回全国英語教育学会熊本研究大会(熊本:熊本学園大学)

今村一博 (2014). 「日本の学校における英語多読に関する質問紙調査から」第 40 回全国英語教育学会徳島研究大会(徳島:徳島大学)

今村一博 (2014). 「社会で求められる英語力向上を目指して」関西工学教育協会秋季大会(大阪:阪急ターミナルビル)

[雑誌論文](計5件)

今村一博 (2016). 「自由記述式回答用紙を用いた英語多読に関する研究 テキストマイニングを援用して」 『中部地区英語教育学会紀要』、中部地区英語教育学会, 45, pp.297-304

今村一博 (2016). 「リーディング中の眼球運動に関する研究 について」 『神戸市立工業高等専門学校研究紀要』, 神戸市立工業高等専門学校, 54, pp. 7-10

今村一博 (2015). 「語彙及び読みに関する諸側面の相互関係」 『LET 関西支部研究集録』、外国語教育メディア学会関西支部, 15, pp.43-66

今村一博 (2015). 「英語指導者を対象にした多読に関する質問紙調査から 予備的研究」 『神戸市立工業高等専門学校研究紀要』, 神戸市立工業高等専門学校, 53, pp. 67-71

今村一博 (2015). 「高校在学中の英語多読が大学生へ及ぼす情意面への影響」 『中部地区英語教育学会紀要』、中部地区英語教育学会, 44, pp.217-224

[上記以外に、国際誌に論文を投稿中]

6 . 研究組織

(1)研究代表者

今村 一博 (IMAMURA, Kazuhiro)

神戸市立工業高等専門学校・一般科・教授

研究者番号：70632826